

凜風館に「コラボレーションコモンズ」がオープン

“コラボ”で「考動力」を鍛える 7つのエリアで課外活動や授業外学習を支援

関西大学千里山キャンパスの総合学生会館メディアパーク凜風館1階に、授業外の学習を支援する場として、「コラボレーションコモンズ」が4月1日オープンし、学生たちでにぎわっている。

この施設は文部科学省の私立大学教育研究活性化設備整備事業に、凜風館1階の学生ラウンジをコラボレーションコモンズとして開設する案が採択されたもの。これまでに同事業で採択された教育GPやボランティアセンターなど、関西大学独自の取り組みを集結させ、学生たちの活発なコラボレーションを誘発し、学生の「考動力」の育成を目指している。コラボレーショ

ンの目的や特色に応じて、多目的スペースのコラボレーションエリアと、6つの専門エリアを設けた。

学生、学生スタッフ、教員、職員など、さまざまな立場の関大人が関わるため、多目的なコラボレーションの生成が想定される。刺激的なコラボ環境を得て、関大生がどのような成長をみせるのか、期待が高まる。



コラボレーションエリア

多目的スペース。くつろぎながら新聞や雑誌を読めるコラボレーションラウンジ、ゼミや課外活動の発表を行えるKUステージなどを配置。コモンズの全域には無線LANを構築しており、各エリアの利用案内、PC・iPad貸出などを担うKUコンシェルジュが常駐して、ICTを活用した学習をサポートする。

専門エリア

● **ライティングエリア**……TA(ティーチングアシスタント)によるレポートやゼミ・留学の志望理由書などのライティング支援を実施。文章作成スキル向上を多面的に支援する。

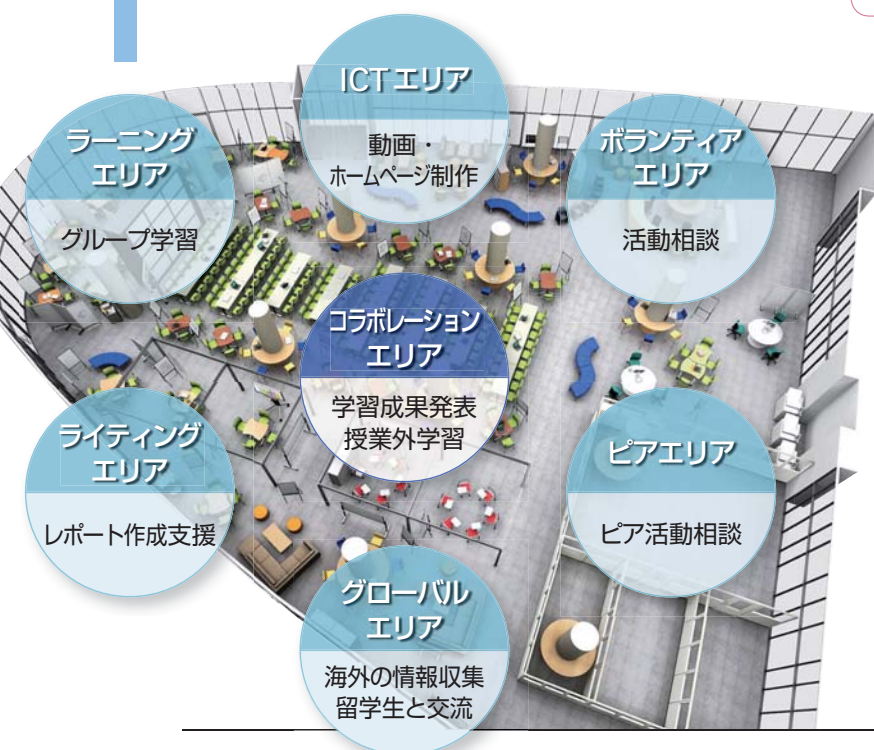
● **グローバルエリア**……留学チューターが留学に関する質問・相談に学生目線で答える。留学生による会話交流会、外国語学習ワンポイント講座、留学情報の提供、留学生向け生活支援などを実施。

● **ボランティアエリア**……ボランティア活動全般の情報交換窓口。ボランティアに関心のある学生同士の交流を促進する。

● **ピアエリア**……学生が学生を支援するピア・コミュニティの活動拠点。ピア・サポート活動を盛り上げるミーティングや各種企画を展開している。

● **ICTエリア**……ハイスペックのパソコンを常備。ゼミや研究室、課外活動のための動画の編集、冊子の制作をはじめ、マルチメディアを駆使したプレゼンテーション資料の作成が行える。また、スマートフォンの活用術講座などが受講できる。

● **ラーニングエリア**……プロジェクター、モニター、ホワイトボードなどを配置。ゼミでの学習、サークルや課外活動の勉強会、研修など、グループワークを実施しやすい環境を整えている。



◎ 公開シンポジウム

「ウェークアップ! ぷらす Live in 関西大学」を開催 次世代型蓄電池の未来を論議



石川 正司 化学生命工学部教授 カarlos・ゴーン 日産自動車社長兼最高経営責任者(CEO) 猪瀬 直樹 東京都知事



パネルディスカッションに熱心に聞き入る約1000人の参加者

読売テレビの報道番組「ウェークアップ! ぷらす」の公開シンポジウム「ウェークアップ! ぷらす Live in 関西大学」(主催・読売テレビ、読売新聞大阪本社、協賛・関西大学)が3月23日、関西大学千里山キャンパスで、「未来! POWER 蓄電が日本を救う!」をテーマに開かれた。

番組でおなじみの辛坊治郎メインキャスターと虎谷温子アナウンサーが総合司会を担当。本学の石川正司化学生命工学部教授が基調講演を行い、「安全性が高く、数分で高速充電できる大容量の蓄電素材を開発した。材料レベルの開発から蓄電技術で世界をリードしたい」と意欲を示した。続いて、茂木敏充経済産業大臣が、スマート社会実現に対する国の戦略と課題を基調報告。さらにカルロス・ゴーン日産自動車社長兼最高経営責任者(CEO)が特別講演し、関大生からの質問にも丁寧に答える形で、電気自動車をもたらす持続可能な社会についての持論を展開した。



カルロス・ゴーン氏とリーダー像について意見交換を行った本学の学生たち

講演終了後は、猪瀬直樹東京都知事、タレントの八田亜矢子さん、岩田公雄読売テレビ報道局特別解説委員に、石川教授が加わり、「蓄電池の可能性とクリーンな生活」と題したパネルディスカッションが行われ、エネルギーの効率利用とそれによって起こる社会の変化に対する関心の高さから、約1000人の参加者からは質問が相次いでいた。

人間健康学部が信州大学大学院 医学系研究科と学術連携協定を締結

スポーツ医科学分野の発展を目指す

関西大学人間健康学部と信州大学大学院医学系研究科は、スポーツ医科学分野で「高齢者の健康長寿のための個別運動処方」の西日本エリアでの展開を目指して学術連携することで合意し、3月25日、信州大学松本キャンパスで締結調印と記者会見を行った。

信州大学大学院医学系研究科では、速歩きとゆっくり歩きを交互に繰り返す「インターバル速歩」を考案し、生活習慣病予防や健康増進を図る運動プログラム「熟年体育大学」事業を長野県内外の30あまりの自治体や大学で展開している。

関西大学は2010年、人間健康学部を新設し、スポーツ医科学

(左から)
関西大学人間健康学部
小田 伸午 副学部長、
信州大学大学院医学系
研究科 福嶋 義光 科長



の幅広い分野で活躍する人材育成に取り組んできた。今回の連携で、同学部のある堺市における地域貢献事業として「インターバル速歩」教室を導入し、同学部がこれまで蓄積してきた知的リソースと融合・発展させることで、新しい中高年のための健康増進プログラムを共同開発し、両大学が連携して西日本エリアでの展開を進めていく。